

保護水面調査

辻ヶ堂 諦・石川 貴朗

目的

二見町沖に設定されている貝類（アサリ）保護水面及び藻場保護水面において、保護水面を管理するうえの基礎資料を得るための調査を行う。

方法

1. 貝類（アサリ）保護水面調査

保護水面内の12測点で、アサリの分布、棲息量、殻長組成及び底生生物の生息量調査を6回行った。これと対応して、水質調査（水温、塩分、PH、DO、COD、栄養塩類等）及び底質調査（粒度組成）を各2回行った。また、産卵期調査として、成熟度調査、浮遊幼生調査を行った。

2. 藻場保護水面調査

保護水面の周辺域の環境を把握するため、水質調査（水温、塩分、DO、COD等）を毎月1回、底質調査（粒度組成）を年1回行った。また、保護水面内及び周辺域で底生生物調査を5回、刺し網による漁獲試験を8回行った。さらに、藻場の繁茂状況等を把握するため、3月に潜水による人工漁礁調査、周辺域の藻場分布調査を実施した。

結果

1. 貝類（アサリ）保護水面調査

保護水面内の干潟域におけるアサリの分布は8月が最も多く、12月にやや減少傾向がみられたが、2月では増加していた。生息量は前年は貧酸素で大きな被害があったが、本年度はやや回復傾向がみられる。殻長組成は4～8月までは殻長4mm以下の稚貝が多かったが、10月以降は各殻長に分散してみられた。アサリ以外の貝類は6種類が確認され、このうち、シオフキ、アラムイロガイ、ユウシオガイ等は全測点にみられた。貝類以外の底生生物は稚ガニとゴカイ類がみられた。

水質調査では、貝類に影響を与える様な数値はみられなかった。また、粒度組成は粒径0.25～0.125mmの微細砂が60～75%を占めていた。

アサリの成熟度調査では、熟度の高い貝は5～10月の間にみられ、この期間はいずれも産卵に関与してると思われ、浮遊幼生は8、10月に多かった。

2. 藻場保護水面調査

水質調査結果から、水温は高め、塩分は平年に比べて低めであり、DOは特に異常値はみられなかった。底質の粒度組成は粒径0.125～0.25mmの微細砂の割合が高く、保護水面の陸側でやや泥分が多く、例年と同様の傾向がみられた。

底生生物の種類は、アサリ、オニアサリ、バカガイ、ホトトギス、ゴカイ類、スゴカイ類、イトゴカイ類、エビ類の8種類であった。

刺し網による漁獲試験では、例年と同様にイシガレイが最も多く、続いて、マゴチ、アカエイが多く、これ以外の、水産有用種はクロダイ、マコガレイが確認された。

人工漁礁の潜水調査では、メバル、メジナ、ハゼが確認された他、藻類では、緑藻類3種類、褐藻類が2種類、紅藻類が13種類がみられた。

保護水面周辺域の藻類分布調査ではアマモは宇治山田港内、二見町今一色前及び藻場保護水面陸側での繁茂が確認され、その範囲は2～3年前より増加がみられ、今後の拡大が期待される。ホンダワラ類は昨年と同様に二見ヶ浦沖の岩場、松下沖の潜堤に群生しているのが確認された。

関連報文

三重県（平成11年3月）：平成10年度保護水面調査報告書（アサリ・藻場）